

人推協だより

第80号
2026. 3. 15
発行
米里地区
人権啓発
推進協議会



一年を振り返って

米里地区人権啓発推進協議会

会長 石谷 幸四郎

今年度は、温暖化が一因と思われ極端な天候に悩まされる一年となりました。

人推協では、全ての人権問題につながる「思い込み」を、テーマにして活動してまいりました。思い込みによって、無意識の差別につながるがあります。

役員研修会

7月6日(日)米里地区公民館大広間にて講演会を実施しました。テーマは、「日常生活の中の思い込み」で講師は、鳥取県人権文化センター専任研究員 中尾和則さんでした。

小地域懇談会

DVD『人権のヒント地域編「思い込み」から「思いやり」へ』の視聴後、少人数に分かれて「人生思い込みかるた」を取り「思い込

み」について自分事として考えていただきました。

今年度は、団体間の事業連携で米里地区健康づくり推進協議会と連携して実施しました。実施状況の詳細は次ページに掲載しています。

その他

米里まつり10月18日(土) 総合わせゲーム「思い込みに気を付けて」を米里地区体育館にて実施しました。



各種研修会

・第50回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会は、8月1日(金)鳥取県立生涯学習センター(県民ふれあい会館)ホールを主会場として、3名参加でした。

・第51回人権尊重社会を実現する鳥取市民集会は、8月7日(木)とりぎん文化会館で開催され『全体会』シンポジウム「ひとりぼっちをつくらない地域社会を目指して!」7名参加しました。

・桜ヶ丘ブロック同和教育研修大会は、9月28日(日)若葉台小学校にて開催されました。映画「カムイのうた」が上映され10名の参加でした。

・桜ヶ丘ブロック人権啓発推進員研修会は、2月28日(土)若葉台地区公民館にて開催されました。講師は、鳥取市環日本海経済交流センター長チエブラコワ・イリーナさん「外国人との共生社会について」4名参加しました。

2025年度 事業報告

内 容	開 催 日	内 容	開 催 日
推進員会議	年間12回	第51回人権尊重社会を実現する鳥取市民集会	8月7日
役員総会	4月5日	男女共同参画基礎講座	8月23日
鳥取市地区人権啓発推進協議会連合会 総会	5月16日	人権とっとり講座 推進員研修会	8月27日
鳥取市人権教育協議会 総会	5月16日	人権とっとり講座 推進員研修会	9月6日
鳥取市地区人権啓発推進協議会連合会会長研修会	6月27日	桜ヶ丘ブロック同和教育研修大会	9月28日
人権とっとり講座 推進員研修会	7月1日	米里まつり	10月18日
米里地区役員研修会	7月6日	第2回推進員全体研修会	12月5・6日
小地域懇談会(2~3ページ詳細)	7/12~12/14	第2回桜ヶ丘ブロック会長会	1月17日
人権とっとり講座 推進員研修会	7月14日	桜ヶ丘ブロック人権啓発推進員研修会	2月28日
第1回推進員全体研修会	7月18・19日	三役会議	3月4日
第1回桜ヶ丘ブロック会長会	7月26日	会計監査	3月17日
第50回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会	8月1日	第3回桜ヶ丘ブロック会長会	3月28日

今年度の小地域懇談会はこんな感じ

テーマ『気をつけよう。日常生活に潜む思い込み』

7月から12月にかけて11地区の会場で小地域懇談会を開催しました。準備、運営にあたって各地区の区長・町内会長、協力員の皆様には大変お世話になりました。

今年度は、「無意識の思い込みが、誰かに嫌な思いをさせているかもしれないことを自覚して、言葉にする前にちよつと立ち止まって考えてみましょう。」と呼び掛ける目的で、二部構成で開催しました。

始めは人権啓発DVD【人権のヒント 《地域編》 「思い込み」から「思いやり」へ】の視聴です。その内容は、街の喫茶店「カフェ・ヒューマンライツ」のママのところへ、さまざまな思いをいだいた人々が集まってくる。その交流のなかから、「人権のヒント」を考え、それぞれの違いを思いやる心の大切さを理解する。というものです。登場人物のセリフの一部を紹介します。

「育児は母親の仕事だろ。こっちは外で働いて疲れているんだ。」

「何にされますか？ここはコーヒーがとってもおいしいお店なんだけど。」

「東北生まれの人は我慢強いよねえ。おしんぐみたいだねえ。」

など、第三者の立場で見ていると、一方的に自分の思いを伝える言葉から、相手の気持ちに想像できません。

でも、これが当事者となるとどうでしょうか。言ってしまうから気づいたり、気づかないまま相手の気持ちを無視してしまうこともありがちなことです。参加者からいただいた感想を一部ご紹介します。

○人がしているのを見ると、おかしいなと気付いても、自分のことは気付いていないのかもしれないな、と思った。時々振り返る時間を持つよ

う心掛けたいと思う。

○特に印象に残ったのは、古い価値観のまましていると、知らないうちに誰かを傷つけてしまう可能性があるの、日常の言動や判断には十分気をつける事の大切さを感じた。

○立場が変われば、固定観念にとらわれて人権意識が薄れがちになるので、常に他者の立場や、自身の思い込みに気を配ることが重要だと思った。

○「思い込み」が思い込みだと気づかせてくれる人がいて、その人の話を受けとめることができる関係性が、まず第と感じた。顔を合わせてあいさつをしたり、出会ってちよつと話す人がいることはとても大切で、そこから気づきをどう生かし、「思いやり」へ近づいていけるかを考えさせられる内容だった。

○人権研修をこまめに受けて、人権意識を高めることが必要。

DVDを監修されたJFEスチール(株)人権啓発室の竹内良室長は、次のように呼びかけておられます。

私たちは、一人ひとりが異なる個を生きています。

人種、信条、性別、社会的身分、門地、障がいのあるなし・・・と、人それぞれ違っています。ですから、相手の立場に立つことはできません。ただ、立てないと自覚することはできません。

それが想像力であり、思いを馳せる、思いやりということだと思っております。

地域の何気ない暮らしの中から、「思いやり」を考えてみませんか。

2010年に制作された内容で、少し現代社会にそぐわないと思われる部分もありましたが、視聴者の心に主題や作者の意図がしっかりと伝わっていました。



雲山南団地集会所の様子

各地区の参加状況

地区	長砂	古郡家	美和	西大路	雲山南	越路	雲山中央	中大路	東大路	東雲山	久未
実施日	7月12日	8月24日	8月29日	9月7日	10月12日	10月25日	11月9日	11月9日	11月14日	11月30日	12月14日
参加人数	11名	16名	13名	10名	22名	11名	15名	9名	9名	9名	11名



次に、小グループに分かれてかるた取りをしました。

それは、鳥取県 男女協働未来創造本部 県民運動課が、自分では気がついていない無意識の思い込みや、自分は既に理解しており関係ないという無関心を解消するため、啓発ツールとして作成された『人生思い込みかるた』です。

その中から3枚を紹介し



「当たり前」はひとそれぞれ価値観です

「思い込み」大切なのは一人一人が気づくこと

みんなが言ってるからといって正しいとは限らない

ほんの10分間の時間設定だったので、かるた取りは枚数を減らしました。

その後、取った絵札の裏に書かれた解説を読んでもいただき、さらに言葉の意味を深く考えたり、身近な体験談を語り合ったりしました。どのグループも和やかな雰囲気、時折笑い声が聞こえたりしていました。

ちなみに、この3枚の絵札の裏に書かれている解説は次のとおりです。

あ 自分にとって当たり前と思っているものが、他者にとっては当たり前とは限りません。価値観の違いは「当たり前」と受け止めることが大切です。

お 「思い込み」は誰もが知らず知らずのうちに持っているもので、日常にあふれているものです。思い込みにより、「決めつけていないだろうか?」と気づこうとすることが大切です。

み 学校や組織などでは集団の考えに疑問を持ちにくくなり、間違っているも正

当化したいという心理が働きます。状況を客観的に判断し、本当にそれが正しいの?と疑問をもつことが大切です。

グループトークに関する感想をご紹介します。

○かるた取りを通して自然と笑顔やひと言が出て、とてもよい構成だと思った。

○グループ別トークは、「例えば老人会と子ども会など、年代を超えたトークの場を持ち、お互いの考えを理解すべき」、「外国人の方との交流の場を県や市は開催すべき」などの話題で盛り上がった。



美和公民館の様子



久末公民館の様子



東雲山集会所の様子



雲山中央集会所の様子

小地域懇談会では、コロナ禍以降話し合いの時間を設けていなかったのですが、どのような反響があるか少し心配をしていましたが、次のようなご意見をいただきました。

○年に数回でも、一つのテーマを決めて各グループが議論し合う環境がもっとあれば、横のつながりも強くなって、暮らしがもっと良くなっていこうと思う。

○出席者、参加者が例年役員や特定の方のみとなりがちなので、あり方を根本的に見直す必要があると思うが、参加したがいらない方に参加してもらうことは難しいので、何らかの工夫が必要。

また、地区健康づくり推進協議会さんとの共同開催で、最初に体操をして心と体をほぐしたのも和やかな雰囲気づくりにつながったと思います。



越路公民館の様子

桜ヶ丘ブロック 同和教育研修大会



9月28日に、若葉台小学校にて映画「カムイのうた」が上映されました。

この映画は、明治〜大正期にかけてアイヌ文化伝承者であり19歳で夭折した知里幸恵という実在の人物をモデルに描かれた作品です。この映画は、アイヌへの差別・学校教育での同化政策・アイヌ民族遺骨の盗掘問題など史実に基づき制作してあります。

上映に先立ち、「アイヌの人たちと共に歩むとつとりの会」代表の三谷昇さんから『映画「カムイのうた」を通して考えるアイヌの人たち―アイヌ問題の現状―』という演題で、アイヌの歴史、アイヌ民族を取り巻く現代の状況、人権侵害（差別）などの話を伺いました。

そして、「共に生きると

は、歴史を学び、認識を新たにすること。出会う機会を多くつくること。視点をかえること。」だと結ばれました。

参加者の感想

・どうしてこんなに悲しいんだろう。

それは、もし神様がおられるなら、この様な女性をこんなに若くに、一瞬に命の灯を消す様なこととはされなかつたらうと思うから。彼女は、命があれば、もっともっとたくさん経験や意見や希望を書物にして残すことができただろうし、訴えていける力を持っていた。母もそんな彼女を生かして応援し、託して行こうと、若い娘を遠くに出したと思う。それは母の夢であつたらうし、訴えでもあつた。でも、あんな形で娘の死を知らされた。母の気持ちと思うと心をもぎ取られる。

後悔し、自分を責め娘を想い。母は立ち直れたのだろうか？

・映画のモデルとなつた知里幸恵氏の没後100年、本当ならば、先人の努力で、アイヌだけでなく異文化や異民族に対する日本人の差別意識や人権侵害はなくなつたと、胸を張って言える時代であるべきだが、残念ながらそうはなっていない。

逆に時代を遡るかのように、今は「日本人ファースト」なる言葉が叫ばれている。「日本人」を「和人」に置き換えれば、今の日本はアイヌの人々に同化政策を強制した時代と同じ空気になるつつあるように思える。

自分たちのアイデンティティーだけでなく、異文化や異民族のアイデンティティーを認めて、リスパクトできてこそ、差別やポピュリズムの意識をなくし、グローバリゼーション、ノーマライ

ゼーションの世界の中で、私たちは真の日本人として誇れるようになるのではないのでしょうか。

・アイヌという言葉は聞いたことがあつたが、あのような差別行為がおこなわれていた事を初めて知つた。今回このような機会がなければ知ることがなかつたのでよかつたと思う。

・アイヌの人々が理不尽な差別を受け、深い悲しみを抱きながらも、アイヌであるという事を誇りに思い、力強く生きてこられた事に、そしてユーカラの唄の美しさにとても心を打たれました。又、今でも尚、アイヌをルーツに持つ人々が自分の生い立ちを隠しながら生活しておられるという現実がある事にとても心が痛みます。

今、世の中には様々な差別が生まれています。私達は差別という事に対

し、もっと正しく理解をし、そして学び、一人一人が意識を変えることから差別や偏見のない、誰もが安心して暮らせる社会になることを願うばかりです。

この作品の意味、問いかけを改めて考えさせられたように思います。

明治32年公布の北海道旧土人保護法が廃止されたのは、平成9年になってからでした。今なお、1,600体以上もの遺骨が子孫に返還されていないといまです。この映画を通して長く根深い差別の現実と搾取された時間を思い、強い憤りを覚えるとともに知ることの大切さを痛感しました。

